

6 月号

ひだまり

わかくさこども園



2023.6.1



雨上がりの翌日に開かれる、泥だんご大会。

雨が土を柔らかくしてくれることを、
子どもたちはよく知っている。

年長さんが、手際よくだんごを作ってみせた。

まんまるで、ピカピカの泥だんご。

それを、あこがれの眼差しで見っていたのは
ももはなさん。

見よう見まねで土をにぎるけれど、
土は手からこぼれていく。

一人が気づき、カップに水を入れて持ってきた。
土に水をかけると、だんだん形になってくる。

おっと、大事な仕上げも忘れずに。
上から“しろすな”を振りかければ、
ももだんごの出来上がり。



ももだんご
(2023.5.10)



6月の予定

- 5日(月) 個人面談開始(～23日)
- 6日(火) 歯磨き指導
- 7日(水) 春の健康診断(保育園)
- 8日(木) 避難訓練
- 14日(水) 春の健康診断(幼稚園)
- 15日(木) 県民の日 ※幼稚園休園
- 22日(木) 春の歯科検診(全園児)

なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



しろすな くろすな

園庭で子どもたちと泥だんご作りをしていると、よく耳にする言葉があります。それが「しろすな」と「くろすな」。同じ赤土（築山などに使っている粘性のある土）のことなのですが、子どもたちは、乾いていて白っぽいものを「しろすな」、湿っていて黒っぽいものを「くろすな」と呼んでいます。なぜそう呼び始めたのかは分かりませんが、私がわかくさに来るもっと前からある言葉のようです。

「くろすな」が掘りやすくなる雨上がりには、泥だんご作りが人気を集めます。ただし、みんながあこがれるピカピカのだんごを作るためには「しろすな」も必要。「しろすな」を取るために晴れの日を待って、数日ごしに完成となることもあります。

納得の作品ができると、大人たちに自慢しにきてくれる子どもたち。もう何個も作っているみそらのだんご名人たちに、作り方を聞いてみました。

「きれいなまるにするには、くろすなにみずをたくさんいれるのがだいじ」

「きれいなまるができたなら、しろすなをかけてみがく」

「みがくなら、ひらべったいてのひらか、ぬのみたいなものがいい」

大きさや色、ピカピカ具合など、一人ひとりこだわるポイントも違う泥だんご。ももはなさんがその奥深い世界に一步を踏み出そうとしているのが、冒頭ページの場面です。

ももはなさんたちはまず、スコップやシャベルなど、必要なものを考えて用意し、土を掘り始めます。途中で、土を固めるには水が必要なことにも気がつきました。面白かったのが、最後の仕上げがお兄さんお姉さんと違っていたこと。ももはなさんたちが使ったのは「しろすな」ではなく、砂場にある灰色の砂でした。砂場の砂は粗いので、磨くこともピカピカにすることもできないのですが、できあがった自分だけのだんごをうれしそうに見せてくれました。



子どもたちの遊びは、素材の性質や特性を知ることで広がっていきます。土や砂にもいろんな種類があることや、水と合わさると形や感触を変えること、それを子どもたちは、「遊び」という繰り返しの実体験を通じて、知らず知らずに学んでいきます。



ももはなさんたちが、「しろすな」の本当の正体に気づくのはもう少し先かもしれませんが、気づいた時の驚きや喜びが「もっと知りたい」「もっとやってみたい」を引き出していくことなのでしょう。ももはなさんの泥だんごの世界がこれからどう広がっていくのか、楽しみです。



余談ですが、幼児クラスの保育補助に入ってくださっているれいこ先生は、子どもも大人も認める「わかくさいチ」のだんご名人。れいこ先生の作る泥だんごを目指し、頑張っている子もいるほどです。れいこ先生もまた、子どもたちの熱意に負けじと、園庭での“良い土探し”に日頃から余念がありません。

同じ遊びを共有できる友だちや大人がそばにいることも、「やってみたくなる」大きなきっかけです。新年度が始まって2ヶ月、いつも近くにいる人たちに対する安心感も、子どもたちの中で少しずつ大きくなってきているようです。



お礼とご報告

春の行事月である5月は、乳児さんのふれあいday、3・4歳のピクニック、そして5歳の遠足と盛りだくさんでした。保護者のみなさんには準備や参加等、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。子どもたちの今の姿や成長、クラス内の雰囲気や少しでも感じてもらえる機会になったのであればうれしいです。

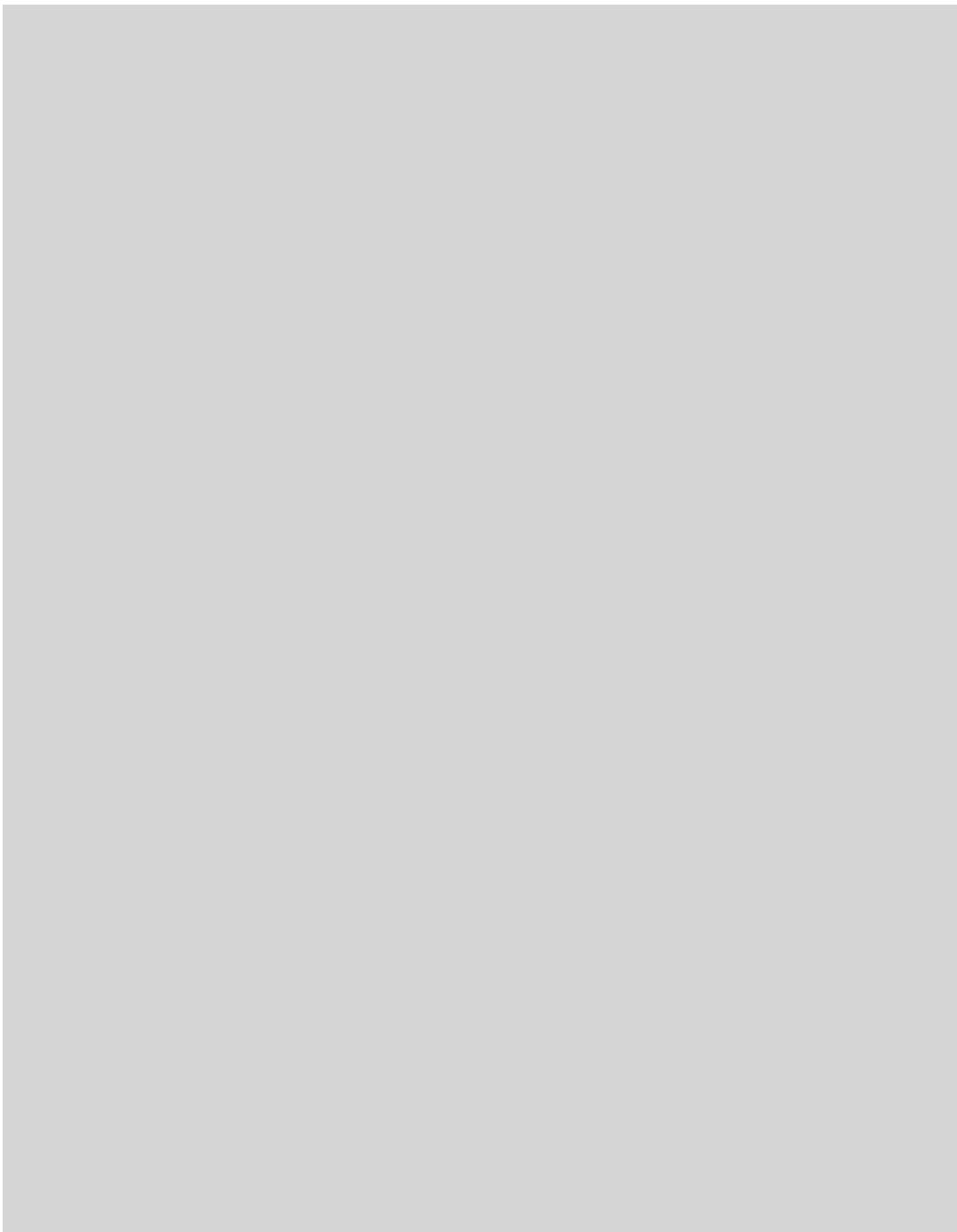
また、ご協力と言えば、5月13日（土）、みそら・ふじ・ももはなぐみのお父さんたちにお集まりいただき、菜園作りを行いました。当日はお父さんたちの活躍で、あっという間に3つの菜園が完成しました。早速園でもこの菜園を使い、野菜作りを始めています。先日は、みそらぐみでにんじんの種とスイカの苗を植えました。子どもたちも大きくなるのを心待ちにしています。



さて、暑さとジメジメの梅雨が近づいてきました。体調を崩しやすい時期です。なるべく疲れをためないように、過ごしていきたいですね。6月もどうぞよろしくお祈りいたします！



お知らせ



保健だより

梅雨の季節がやってきました。天気の変わりやすいこの時期は体調を崩しやすいので、十分に注意が必要です。子どもは遊びに夢中になったりどの渴きに気づきにくいいため、熱中症になりやすいです。適宜休憩をとり、こまめな水分補給を心がけましょう。

* 梅雨の時期の注意点



○食中毒

食中毒は6月から9月頃にかけて多く発生します。子どもたちの健康を守るためにも、衛生面と共に、食材の管理や調理法にも気をつけましょう。

○事故

雨の日は傘をさすことで視界が悪くなり、事故の危険性が高まります。また、雨で滑りやすく、転びやすくなりますので、十分に注意しましょう。

○かぜ

蒸し暑さから汗をかくことが増えてますが、朝夕は気温が下がり、寒くなります。汗をかいたら着替える、寒くなったら上着をはおるなど、体温調節を行うようにしましょう。

* 6月4日は虫歯予防デーです

○虫歯にならないために

- ・食べたらずぐに磨きましょう。特に寝ている間は唾液の分泌量が減るため、寝る前は念入りに。
- ・だらだら食いは虫歯の要因。食べる時間を決め、しっかりと噛んで食べる習慣をつけましょう。たくさんの唾液は口の中を洗い流し、虫歯を防いでくれる役割があります。
- ・1歳半位でスプーンを持つようになったら、歯ブラシを自分で持って口に入れてみるようにします。
- ・歯磨き中の誤嚥に注意しましょう。歯磨きの場所を決めたり、「ながら歯磨き」（歩きながら、遊びながら、テレビを観ながら等）をしないように約束したりして、事故を防ぎましょう。

○仕上げ磨きについて

自分でしっかり磨けるようになるのは9歳くらい。特に5歳から9歳くらいは歯の交換が活発で、虫歯もできやすいので、大人がしっかり口の中をケアしてあげましょう。仕上げ磨きをする際は、歯ブラシを歯と歯茎の間の歯周ポケットにあてがうようにし、軽い力で小刻みに磨くと良いです。



看護師・藤井 佑季



6月 保健の予定

20日（火） ももはな・ふじ・みそら 身体測定
21日（水） こむぎ・ゆずは 身体測定

わかくさこども園

wakakusa kodomoen